

# 課題名 新規就農者の確保・育成による金山ねぎ産地の維持・再構築

所 属 名：始良・伊佐地域振興局農政普及課伊佐市駐在  
発表者名：蛸原 直人

## <活動事例の要旨>

伊佐地域では、金山ねぎ栽培者の高齢化等に伴い、産地維持が懸念されていた。一方で、他品目より初期投資が少ないことに加え、平成24年度から始まった青年就農給付金制度も追い風となり、ねぎを栽培する新規就農者は増加傾向となった。

そこで、当課では関係機関と連携して新規就農者支援体制を整備し、新規就農者が「金山ねぎ」で早期に経営確立できるように、各種施策の検討、技術研修会の開催、カウンセリング等の個別支援に取り組んだ。

その結果、平成24年度から令和元年度の8年間で15戸の金山ねぎ新規栽培者が確保でき、金山ねぎ面積は22ha（H24）から31ha（R1）に拡大した。

## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由

金山ねぎは、昭和61年に旧菱刈町で転作作物として導入された。その後、旧大口市でも栽培が始まったが、平成8年の110ha（栽培者320戸）をピークに、農家の高齢化等により平成24年には22ha（栽培者75戸）まで減少し、産地の維持が課題となっていた。

このため、青年就農給付金制度を活用して増加する新規就農者の経営を早期に確立することが、金山ねぎの産地維持・再構築に繋がることから、当課題に取り組んだ(図1)。

### (2) 計画の策定過程

#### ア 新規就農者の経営確立

新規就農者が抱える課題を担い手サポートチーム会(以下担い手ST)で共有し、早期経営確立に向けた支援体制のあり方を協議し、調査研究として「新規就農者ガイドブック」の作成に取り組むこととした。

#### イ 金山ねぎ産地の維持・再構築

新規就農者が栽培技術を早期に習得できるように、関係機関・団体と連携し、個別課題の把握方法や若手農家の組織育成について協議した。また、生産安定を図るため、調査研究で水田での栽培方法の検討に取り組むこととした。

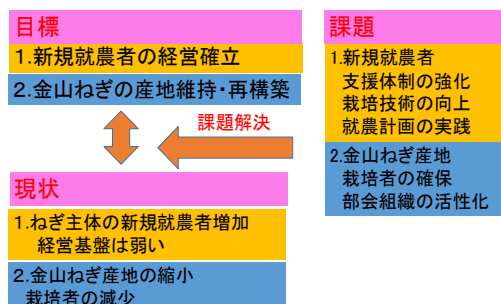


図1 目標設定のフロー図

## 2 普及活動の内容と方法

### (1) 活動の経過

#### ア 新規就農者の経営確立

(ア) 新規就農者の受け入れから経営確立までの各段階で、効果的な支援ができるように調査研究に取り組み、「新規就農者ガイドブック」を作成し、活用した。

(イ) 個別に経営状況及び課題を把握し、経営確立に向けた技術改善指導や資金計画作成を支援した。

(ウ) 新規就農者を対象とした基礎講座及び根深ねぎ研修会(専門講座)を実施した。

#### イ 金山ねぎ産地の維持・再構築

(ア) 金山ねぎの産地維持について、園芸振興協議会伊佐支部で課題整理と対策の検討を行った。

(イ) 経営課題の把握と支援策の検討を行うため、個別カウンセリングを実施した。

(ウ) 金山ねぎ振興会では、産地としての新規就農者の受入体制、若手農家の組織育成を協議した。

(エ) 調査研究の取組を基に、生産安定に向けた「水田汎用化マニュアル」を作成した。

## (2) 指導・支援の体制

### ア 新規就農者の経営確立

担い手STで、関係機関・団体が役割を分担し、支援を行っている(図2)。

また、就農前には、指導農業士が研修の受入先として指導助言を行っている。

### イ 金山ねぎ産地の維持・再構築

園芸振興会伊佐支部で、個別経営確立に向けたカウンセリングやベテラン農家ほ場での研修会の開催、若手農家によるねぎの会の組織化を検討した。

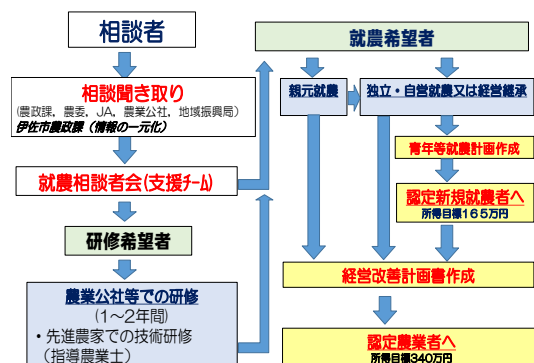


図2 支援体制～相談から経営確立まで

## 3 普及活動の成果

### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

#### ア 新規就農者の経営確立

(ア) 伊佐市が新規就農者の経営状況や課題の情報を一元化し、新規就農者の確保・育成を行う支援体制ができた。

(イ) 認定新規就農者の経営目標(165万円)を達成する農家が4戸育成された。

(ウ) 新規就農者の中から、大規模根深ねぎ栽培を志向する農家が出てきた。

#### イ 金山ねぎ産地の維持・再構築

(ア) 平成24年度から令和元年度の8年間で、金山ねぎを栽培する新規就農者が15名誕生し、金山ねぎ共販面積は22ha(H24年度)から31ha(R元年度)に拡大し、新規就農者の栽培面積は、全体の44%を占めるようになった(図3、図4)。

(イ) 若手ねぎの会が設置され、省力化に向けた検討や新技術の実証などの新しい動きが始まり、産地の活性化が図られつつある。

### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

新規就農者が早期に定着できるよう、関係機関・団体が連携し、支援体制整備や経営確立支援に積極的に取り組んでもらい感謝している。

今後、若いねぎ生産者が新技術の導入や省力化対策などを研究し、産地を牽引していくように支援してほしい。

### (3) 地域農業振興への貢献

新規就農者が増えることで、減少していた金山ねぎの栽培面積に歯止めがかかり、産地維持に貢献している。

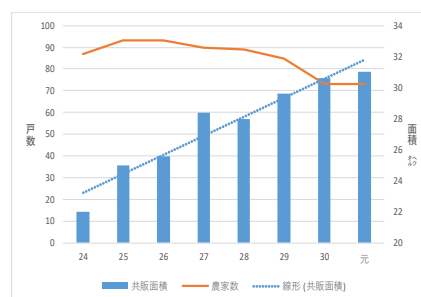


図3 金山ねぎ共販面積の推移

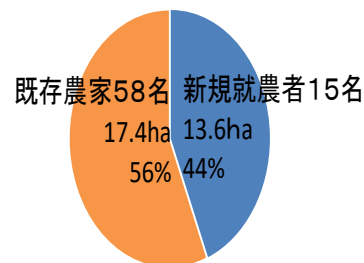


図4 新規就農者の栽培面積割合

## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 今後の課題

ア 個々の経営拡大は図られつつあるが、所得目標に達成していない農家もあり、継続した経営確立支援が必要である。

イ 金山ねぎ栽培者(73戸)のうち70才以上の人数は25戸で、産地維持のためには年2戸程度の金山ねぎを主幹とする新規就農者の確保が必要である。

### (2) 今後の活用に向けて

構築された新規就農者の支援体制や産地の維持・再構築の取組を他品目に波及する。